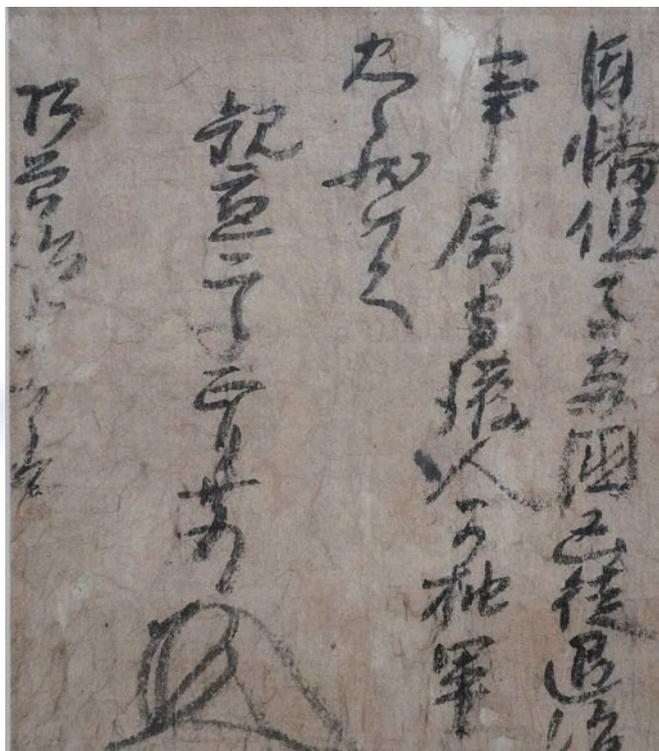


# 東広島市史編さんだより

第7号 令和8(2026)年3月1日



阿曾沼氏宛て足利尊氏軍勢催促状（個人蔵）

(釈文)  
因幡但馬兩國凶徒退治  
事属守護人可抽軍  
忠之状如之  
観応二年正月廿五日(花押)  
阿曾沼□□殿

(要約)  
因幡と但馬、両国の  
敵の退治について、  
守護に従って戦功を  
たてなさい。

写真の史料は縦14.8cm、横12.7cmと古文書としては小さなものにあたります。  
宛先にある阿曾沼氏は世能村（現在の広島市安芸区瀬野）を本拠とする一族で、建武5年（1338）には三津村（現在の東広島市安芸津町三津）に所領（支配地）を持っていました。

日付の下にある記号は花押と言って、自分の名前を表したものです。花押の形からこの史料は室町幕府を開いた足利尊氏が作成したものと考えられます。

内容としては観応2年（1351）1月25日に足利尊氏から阿曾沼氏に出された書状で、因幡（現在の鳥取県東部）と但馬（現在の兵庫県北部）の「凶徒退治」のための軍勢を強く求めています。文面の「守護人」とは将軍に代わって地方を治める役職の事ですが、当時備後守護は直義方の上杉顕能であるため、尊氏が従うよう指示を出すとは考えにくいので、安芸守護の武田氏信と考えられます。

この史料が書かれた観応2年は観応の擾乱という足利尊氏と弟の直義の対立から始まった内乱の最中であり、文面からは阿曾沼氏へこの内乱への参戦を促している様子が伺えます。

今回所有者の方のご厚意により、この史料の赤外線調査を行う事が出来ました。次のページでは赤外線調査についてお伝えします。

## 1 古文書の赤外線調査

表紙で取り上げた古文書の赤外線調査について、赤外線の事やその効果についてお伝えします。

### 赤外線について

雨上がりに虹が見える事があります。虹は太陽の光が霧粒の中を屈折・分散・反射して起こる現象です。虹は7色に見えますが、これは光が実は波長であり、私達には波長の長さの違いが見えているためです。色は波長の長いものから順に赤・橙・黄・緑・青・藍・紫に分かれています。光の内で見ることが出来るのはこの波長の中（おおよそ $0.4\mu\text{m}\sim 0.8\mu\text{m}$ ）だけで、赤外線やマイクロ波は波長が長く、紫外線やX線、Y線は波長が短いため目で見えることは出来ません。赤外線は目に見えませんが、見えないものを確認したり、ものを温める効果があります。

赤外線の利用法には以下のものがあります。

- ・近赤外線 ( $0.7\mu\text{m}\sim 2.5\mu\text{m}$ ) …… 果物の選別、異物検査、赤外線カメラなど
- ・中赤外線 ( $2.5\mu\text{m}\sim 4\mu\text{m}$ ) …… 化学物質の同定など
- ・遠赤外線 ( $4\mu\text{m}\sim 1000\mu\text{m}$ ) …… 暖房機器、オーブントースター、センサーなど

### 古文書に赤外線を当てるとどうなるの？

赤外線カメラ調査では赤外線が表面のホコリや顔料を通り抜けて、墨などに含まれる炭素によく吸収されることを利用します。墨には吸収されますが、それ以外の赤外線はカメラに反射し、撮影されます。こうすることで、墨で書かれた部分をはっきり見えるようにしたり、目には見えない墨の跡を探しやすくする事が出来ます。可視光を当てて色を反射させる必要はないので、撮影は赤外線ライトのみを当て、モニターで確認しながら真っ暗な部屋の中で行います。

撮影の様子（※準備段階）



撮影は赤外線ライトのみを当て、モニターで確認しながら真っ暗な部屋の中で行います。

今回の調査でも下の写真の様に墨の部分撮影する事が出来ました。

照射前



照射・加工後



- ① 墨か汚れか不明な部分に墨の跡が現れた。
- ② 紙の端まで書かれていたらしい痕跡が現れた。

## 2

## 本宮八幡神社の資料調査

東広島市史編さん専門部会には、鎌倉時代から戦国時代を対象とする中世部会があります。中世部会では、資料編・通史編の刊行に向けて東広島市に現存する資料の調査を進めています。ここでは、本宮八幡神社の資料調査について紹介します。

令和7年（2025）10月市役所で、1回目となる中世部会の会議が開催されました。この会議では、資料調査の方針として、東広島市に存在する資料が今どのような状態であるのかを調査することが決まりました。そして12月、豊栄町乃美で長い歴史をもつ、本宮八幡神社の資料を調査したところ、古文書や棟札などが確認できました。

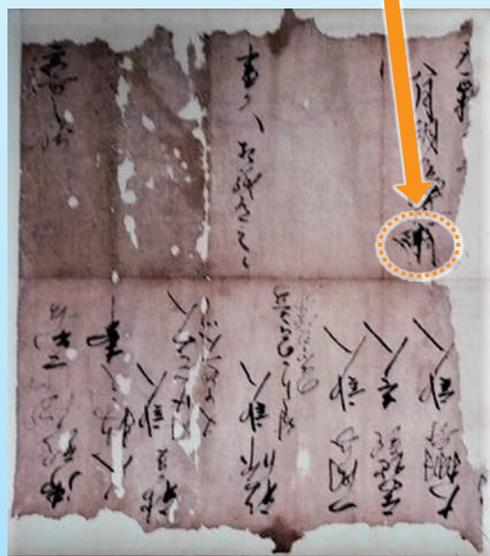
まず、古文書とは文字通り古い文書です。本宮八幡神社の古文書の多くは、すでに刊行されている資料集で活字になっていますが、これまで知られていなかった古文書もありました。それは、当時乃美地域を治めていた、乃美隆興という人物が作成した書簡の一部です。日下（日付の下）には「隆興」という署名とともに、彼の花押（サイン）が据えられています。

また棟札とは、寺社など建物の建築・修築を記念して、その建物の高い所に取り付けたお札のことです。本宮八幡神社の棟札は大切に保管されていたので、とても良好な状態でした。とくに注目したいのは、永正16年（1519）に作成された棟札です。これには「千鶴丸」という名前が書かれています。乃美氏の系図によれば、乃美隆興は永正10年生まれなので、永正16年時点では6才です。このため、千鶴丸は乃美隆興の幼名（幼い頃の名前）の可能性があります。

今回の調査では、本宮八幡神社の資料が乃美隆興の生涯を語る貴重なものということが分かりました。資料調査は新しい歴史的事実を明らかにするために欠かせません。今後も引き続き調査したいと思います。



調査風景



花押

乃美隆興の書簡（一部）



千鶴丸（乃美隆興）の棟札

### 3 市史の資料を集めています

資料を求める呼びかけに応じて貴重な資料の提供をいただいております。ご協力頂いている皆様<sup>いた</sup>に感謝申し上げます。

市史編さん係ではまちの歴史や東広島市らしさを語ってくれる次のような資料を引き続き探しています。

- 古い書物や手紙、日記
- 昔の行事のチラシや新聞記事
- 東広島市域で撮影された風景写真や家族写真
- 古い絵葉書
- 古い町並みなどを記した地図や絵図
- 和紙に墨で書かれた書状や帳面<sup>すみ</sup>

このような資料があるときは、ぜひこちらへご連絡ください。皆様の情報提供をお待ちしています。

〒739-8601 東広島市西条栄町8番29号  
東広島市教育委員会  
生涯学習部文化課 市史編さん係  
TEL：082-420-0977 FAX：082-422-6531



#### 事務局通信

1月に「くずし字に挑戦！古文書から読み解く酒造りの知恵」という講座を開催しました。開催日の朝、会場へ向かう途中、完成したトンドやトンド作成のために人が集まっているのをあちこちに見る事が出来ました。しかし、復路になるとどこにもトンドは残っていませんでした。筆者の地元ではトンドは夕方に点火する所が多いため地域の違いを感じる出来事でした。シンメイさん・トンドは現在でも広い地域で行われており、地域によってはその年の干支などの飾りを付けたり、山車のように移動させる所もあるそうです。



#### 東広島市史編さんだよりー第7号ー

発行日 令和8（2026）年3月1日  
編集・発行 東広島市教育委員会 生涯学習部 文化課 市史編さん係  
〒739-8601東広島市西条栄町8番29号  
TEL: 082-420-0977 FAX: 082-422-6531  
E-mail: hgh200977@city.higashihiroshima.lg.jp  
印刷 一般社団法人東広島自立支援センターあゆみ